



新企画 ギョウカイの診断士 vol.1

「プロコン直球インタビュー」「浪速の診断士道場」に続くオンラインショートセミナーの3つ目の企画「ギョウカイの診断士」を立ち上げました。主として企業内診断士の方に、自らが勤める業界について改めて理解を深め、セミナーで発表していただくとともに、受講者の業界研究・支援ニーズキャッチの一助にさせていただくことを目的としています。登壇希望の方の立候補をお待ちしています。

「これだけは押さえておきたい介護業界のツボ」

日時：2023年6月8日(木)

講師：横山 哲朗

(大阪府中小企業診断協会会員)



講師略歴

神戸大学卒。医療法人などでの勤務と2年半の副業期間を経て、2023年7月に独立。社労士との複眼で、中小企業の労務やサステナビリティの支援を行っている。

●はじめに

医療法人に7年半勤務し、うち4年間は管理職・理事者として経営サイドから診療所と介護施設の運営を行ってきた経験から、介護業界についてお話いたしました。ちなみにセミナー実施時点では業界内部の人間でしたが、本年6月末で退職・独立しましたので、この原稿掲載時点では外部の人間となっています。

●介護業界のツボ① 制度編

2000年の介護保険制度導入により、介護業界では社会化と市場化が進みました。公定価格により価格メカニズムの働かない特殊な市場＝準市場のもとで、54の事業類型に対して、民間企業や医療法人・NPOなど多様な運営主体が参入しています。訪問介護なら約3万5千、通所介護は約2万5千もの事業所が存在しています。介護ソフトや介護器具など、さまざまな関連産業も業界を取り巻いています。厚労省が介護保険財政抑制のために進めている介護保険外しと介護からの「卒業」は事業者にとってもリスク要因になるものです。

●介護業界のツボ② 事業運営編

行政への届け出や書類の保存義務など、書類仕事の煩雑さは特に小規模事業者の負担になっています。仕事の大変さに見合

ない低賃金が原因で、慢性的な人手不足が続いており、その対策として導入された介護職員処遇改善加算は、今や3階建てになりました。介護事業の損益は、特に施設の場合はいかに効率よく定員を埋めるか、そして人員配置と人件費を売り上げに対して適正な水準に保てるか、に左右されます。また介護事業で起こりがちな職員間や職員と利用者のトラブルへの適切な対応も事業の存続には重要です。

●介護業界のツボ③ 課題・支援編

超高齢化社会に備え介護事業を存続させていくためには、介護報酬引き上げと生産性向上による賃上げが必須です。生産性向上のためには、IT投資などによる省力化や組織開発による人材定着・チームワーク向上支援、高年齢人材・外国人材の活用などが求められており、合わせてそれらの施策を内部で実行する中核的人材の確保と育成も必要です。それらは全て診断士が得意とするところだと思います。

●おわりに

診断士には人と人、業界と業界をつなぐ力があると言われる。その力で介護業界と他の業界との結びつきをさらに深めることで、介護業界をエンパワーメントできるのではないかと考えています。私自身、演劇や出版をされている事業者さんが、介護利用者や介護職員をエンパワーメントしようと立ち上げた部門の支援を行っています。

中小企業診断士が、医療・介護・福祉など人をケアするビジネスを支援する力を身に付けるための研究会、仮称ケア・ビジネス研究会の立ち上げを進めています。ご参加をお待ちしています。